

鈴鹿市長 末松則子 様

ポイントゲッターズ問題に関する申し入れ書

【申し入れ事項】

サッカースタジアム計画は一時休止し、設置運営会社の財務・資金状況を調査してください。

【申し入れ趣旨】

鈴鹿ポイントゲッターズは2021年12月12日、自らのホームページに「弊クラブ元執行役員からの告発に関しまして」というニュースを発表しました。詳細は不明ですが、はっきりと分かっていることは、吉田雅一社長とともに執行役員としてサッカースタジアム計画をすすめてきた塩見大輔氏が、8月2日のスタジアム計画発表記者会見直前の7月末に「不正を公表する」と執行役員を辞任し、2500万円を受け取っていたことです。

12月14日付の中日新聞によると、吉田社長の報告を受けた末松則子市長は、「スタジアム建設はスポーツ振興のためで、進めることに変わらない」としつつ、「問題はチーム内でしっかり解決を。経緯を見守りたい」と述べたと報道されています。

この新聞を読んだ市民からは、スポーツ振興のためスタジアム建設を「進めることに変わりはない」というというコメントに、批判が巻き起こっています。

私たちは、公園利用者や市民の声を聞かず市議会にも諮らずに計画がすすめられてきたこと、自然破壊を伴うサッカー場建設の「白紙撤回」を申し入れてきました。それに対して鈴鹿市は「本市のスポーツ振興や地域活性化に寄与する」として計画を推進すると答えました。

6月に鈴鹿市は「本市のスポーツ振興や地域活性化に寄与する」として、三重県に使用料免除を申請し、県は「公益性」があるとして使用料免除での設置を許可しました。しかし、昨今の多くの民間企業は地域貢献活動を行っており、スポーツ振興や地域活性化に役立つというだけで公益性があるとは言えません。建設しようとしているサッカースタジアムは、紛れもなく民設・民営による民間企業の施設であり、公益性があるというのは詭弁にすぎません。

また私たちは、設置運営会社にサッカースタジアム建設の資金計画の開示を求めてきましたが未だに開示されていません。鈴鹿市は設置運営会社を「信用」して、独自に調べることもなく協定にもとづき計画をすすめようとしています。事業が行き詰まれば県との約束通り、鈴鹿市が大きな財政的負担を強いられることとなります。今回発生した問題で、鈴鹿ポイントゲッターズに資金力はあるのか？という疑惑は深まっています。

このように様々な問題が含まれるサッカースタジアム計画は一時休止し、設置運営会社の財務・資金状況を調査してください。その結果を市民に明らかにし、納得のいく説明がされるまで計画はストップしてください。8000筆を超える反対署名者を代表して12月23日までの回答を求めます。

2021年12月17日

鈴鹿青少年の森を愛する会共同代表



事務局：萩森 繁樹

電話 090-4269-0965 鈴鹿市石薬師354